

# 生後1カ月児の泣き声に対する母親の反応

田淵 紀子 島田 啓子 坂井 明美  
炭谷みどり 亀田 幸枝\*

## 要 旨

本研究の目的は、生後1カ月時点における児の泣き声を聞いたときに母親がどのように感じ、どのように対処しているのかという“児の泣き声に対する母親の反応”を明らかにすることである。

石川県内の出産施設で出生した正常な新生児をもつ母親11名を調査対象とし、児の泣き声に対する母親の受けとめ方について、半構成的に面接調査を行ない質的に分析した。新生児の泣き声に対する母親の反応には、【感情・情動反応】、【認知的反応】、【泣きの解釈】、【児の要求を満たすための行動】、【児一般の泣きに対する思い】、【児の性格・気質の感じとり】の6つのカテゴリーが含まれていることが明らかとなった。このうち、【感情・情動反応】と【泣きの解釈】に関連する状況や要因を分析した。【感情・情動反応】には、母親の気持ちの安定性、母親役割意識、前回の授乳時間からの時間経過、泣きの特徴からみた児の気質などが関与していた。また、【泣きの解釈】には『時間経過』と『泣きの特徴的要素』が関与していた。

## KEY WORDS

Crying, Infant, Mothers' reaction, Emotional response, Interpretation of cries

### はじめに

産声に始まる乳児の泣き声は、その後数カ月間、乳児の内的情報を伝達する最も顕著な行動といえる。出生直後の新生児は、泣くことによって自分のニーズ（空腹・痛み・不快等）<sup>1)</sup>を母親に伝えるが、母親が児の泣き声に適切に対応できないと、その後、育児不安が増大し、適切な育児行動の喚起を妨げ、やがて育児ノイローゼに陥る可能性がある。したがって、母親が児の泣き声に適切に対応できるよう母親をサポートしていくことが重要である。

乳児の泣きに関するこれまでの研究には、泣き声のタイプの音声学的分析<sup>2-9)</sup>や、ダウン症などの医学的な問題のある児の泣き声の特徴<sup>10-12)</sup>などが提示されている。しかし、sound spectrogramなどを用いたこれらの音響学的分析研究は、主に異常の診断を目的としたものである。また、大人の認知や対処行動の比較研究<sup>13-18)</sup>などもなされてはいる。しかし、母親がどのようにして児が泣いていることを理解し、対処しているのかという母親の受けとめ方

については、十分に解明されていないのが現状である。

したがって、児の泣き声に対する母親の受けとめ方や、母親がいつごろどのようにして児の泣きの意味を見極めていくようになるのかを明らかにすることは、育児支援をする上で意義があると考えた。今回は、まず出生後早期の時点として生後1カ月に焦点をあてた。生後1カ月という時期は、出産施設から退院し母親が自立して育児を行っており、育児不安が最も多く生じる時期でもあり、援助の方向性を探る上で重要な時期と考えた。本研究の目的は、母親が我が子の泣き声を聞いたとき、どのように感じ、どのように対処しているのか、また何がその感じ方や対処に影響しているのかを質的に探り、明らかにすることである。

### 研究方法

#### 1. 対 象

1996年2月～6月に金沢市内のクリニックにて、出生した正常な新生児をもつ母親11名。

金沢大学医学部保健学科看護学専攻

\* 金沢大学医学部附属病院

## 2. 方法

母子の自宅を生後1カ月頃に訪問し、児の泣き声についての受けとめ方や気持ち、対処方法などについて半構成的に面接を行った。

## 3. 分析方法

面接内容は、承諾を得て録音し、逐語録をもとに内容分析を行なった。具体的には、面接時の表情、しぐさなどを参考に、母から児の泣きに関連して語られたことの中から、児の泣き声に対する母親の反応を抽出し、抽出された現象の類似性をもってカテゴリー化した。

## 結 果

### 1. 対象の概要 (表1)

母親の平均年齢は、27.1歳 (24~33歳)、初産婦6名、1経産婦5名であり、帝切分娩1名を除いて、他は経膈分娩であった。児の在胎週数は、36週以上41週未満であった。一人当りの面接所要時間は20~50分間を要した。

### 2. 児の泣き声に対する母親の反応

児の泣き声に対する母親の反応は、以下に示す6つのカテゴリー (【 】で記す) に区分された (表2)。

実際にわが子の泣き声を耳にした母親は、「かわいい」、「うれしい」などの【感情・情動反応】や、「呼んでいる」という【認知的反応】を示し、同時に【泣きの解釈】をしながら、【児の要求を満たすための行動】がとられていた。さらに、児の要求を満たすための行動に対する児の反応 (泣きやむ、泣き続ける) と【児一般の泣きに対する思い】の双方を包括しながら、「ききわけのいい子」、「むずかしい子」のように【児の性格・気質の感じとり】をしていた。

以下に、1) 児の泣き声に対する母親の反応カテゴリーの内容について示し、そのカテゴリーのうち2) 【感情・情動反応】と【泣きの解釈】について関連する状況や要因について説明する。最後に3) 児の泣きに対する母親の反応が対照的な2事例の比較を示す。

なお、母親の反応として語られた言葉は「」で、その反応に関連する状況や要因は『』で示した。

#### 1) 児の泣き声に対する母親の反応

##### (1) 【感情・情動反応】

実際にわが子の泣き声を耳にした母親は「いとおいしい」、「うれしい」、「かわいい」、「幸せな気分」など児への愛着を示す感情を多くもっていた。また

「また泣いた」、「泣いてばかり」などの落胆するような、児に向かう気持ちが一步退いたような感情が時にみられた。

##### (2) 【認知的反応】

泣き声に対する母親の反応として、先に述べた感情・情動的側面の他に認知的な側面があった。つまり、児の泣きに対して「あっ、(児が) 呼んでいる」というように情動反応より強く、児から母親を呼ぶ合図として“泣き”を受けとめていた。この認知的な反応は、経産婦にみられた。

##### (3) 【泣きの解釈】

児の泣きに対する母親の反応の中には、上記に示した感情・情動反応や認知的反応と同時に児の要求が何であるかを見極めようとする泣きの解釈があった。

実際にわが子の泣き声を耳にした母親は「どうしたんだろう、何かあったのかな」、「おっぱいほしいのかな」、「抱いてほしいのかな」、「おむつ取り替えてほしいのかな」、「おむつかおっぱいのどちらかだわ」というように、児の要求を察知しようとするような泣きの解釈がみられた。

さらに、母親は児の要求を「おっぱいのときは口をパクパク動かすのでおっぱいかな?」、「うんちの時はすごく大きな声できばっている」など泣き声だけでなく、児の表情、排泄状況や声の大きさなど、泣き声を耳にしたときの状況全体をとらえて見極めようとしていた。この見極めは、全ての母親にみられたわけではなく、「(児の泣き声は) いつも同じように聞こえる」、「(泣き声は何を表わしているかは) まだわからない」、「おっぱいのときしかわからない」など児の要求の見極めに自信がもてない母親もみられ、このような母親は初産婦であった。

経産婦の中には、出生後早期より児が周りの様子をうかがいながら泣いたり、泣きやんだりしているというように感じとっている事例もみられた。具体的には、次のような表現で語られた。

「私のこと、もうわかっているのか、私がそばにくると泣くみたいな感じのときがあります。なんか、目を開けて遊んでいる時でも、私と目が合ったら、おっぱいくれるみたいな感じで、泣くことがあるので、もうわかっているのかなって感じがします。」

「子どもの方が、(母の) 様子を見ながら泣いているというのは感じます。(母がそばに) いるのかいないのかとか、(今は) 泣いてもダメだという感じで、ちょっとおさまってみたりします。」

以上、泣きに対する解釈を示してきたが、初産婦、

表1. 対象の概要

No.	母の年齢	初・経別	児の性別	乳幼児の世話の経験等
A	24	初産婦	女	なし
B	27	初産婦	女	なし
C	28	1経産婦	女	上の子(2歳6ヵ月)、兄姉の子、元婦人科の看護婦
D	28	初産婦	女	姉の子
E	24	初産婦	女	なし
F	27	1経産婦	女	上の子(2歳)
G	30	1経産婦	男	上の子(2歳4ヵ月)、小学校教諭
H	27	1経産婦	女	上の子(2歳7ヵ月)
I	25	1経産婦	男	上の子(1歳9ヵ月)
J	24	初産婦	女	なし
K	33	初産婦	女	なし、看護婦

表2. 泣き声に対する母親の反応

カテゴリー	内容	カテゴリーへの関連状況・要因	
感情・情動反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい</li> <li>・かわいい</li> <li>・いとoshい</li> <li>・しあわせな気分</li> <li>・また泣いた</li> <li>・もう泣いてばかり</li> </ul>	①母の気持ちの安定性	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 気持ちのゆとり</li> <li>b. 児が泣く時間帯</li> <li>c. 児の健康への不安</li> <li>d. 母乳不足の気がかり</li> </ul>
		②母親役割意識	
		③前回の授乳時間からの時間経過	
		④泣きの特徴からみた児の気質	
認知的反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あっ！呼んでいる</li> </ul>		
泣きの解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたのかな？</li> <li>・おっぱいかしら？</li> <li>・おむつかしら？</li> <li>・だっこしてほしいのかな？</li> </ul>	①時間経過	
		②泣きの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 児の声質</li> <li>b. 児の様相</li> </ul>
児の要求を満たすための行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児を抱く</li> <li>・おむつをみてとりかえる</li> <li>・声かけする</li> <li>・おっぱいを含ませる</li> </ul>		
児一般の泣きに対する思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おなかがすくから、おむつが濡れたから、だっこしてほしいから、など何らかの理由があるから泣く</li> <li>・特に理由がなくても泣く</li> <li>・いつでも泣く</li> </ul>		
児の性格・気質の感じとり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ききわけのいい子</li> <li>・あまり泣かないおとなしい子</li> <li>・むずかしい子</li> <li>・泣き虫</li> <li>・元気な子</li> </ul>		

経産婦に共通していたのは、児の要求が何であるかを見極めようとしていたことであった。

#### (4)【児の要求を満たすための行動】

泣きに対する母親の反応として、先にあげた泣きの解釈に基づいた行動、すなわち児の要求を満たすための行動があげられた。

わが子の泣き声を聞いた母親は「何かしてあげなくては」、「だっこしてあげなくては」、「おっぱいあげなきゃ」、「すぐにおっぱいあげられたらいいのに」など、児の要求を満たすための自分の行動を思い描き、「児を抱く」、「おむつをみて、取り替える」、「声かけする」、「おっぱいを含ませる」などの児の要求を満たすための行動がとられていた。そして、母親が対処した行動の結果、児が泣きやむことで児の要求を満たしたと解釈し、児が泣きやむまで、いろいろな行動が繰り返し試みられていた。この時期は「とりあえずおっぱい」と語られるように、児の泣きに対する母親の対処行動は、おっぱいを含ませることが中心となっていた。

#### (5)【児一般の泣きに対する思い（理解）】

児の泣きに対する母親の反応と対処行動の経験の積み重ねから、【児の性格、気質の感じとり】に至るが、その性格、気質を感じとらせる根底には、“泣き”に対する一般的理解の仕方が異なることがあげられる。

これは、赤ちゃんの“泣き”に対する母親のイメージ、すなわち、赤ちゃん一般がどんなときに泣いたり、泣く意味（理由）をどのように理解しているかということである。大方の母親は、赤ちゃんが泣くのは「おなかがすいたから」、「おっぱいがほしいから」、「おむつがぬれているから」、「何かして欲しいから」など何らかの理由があるからと受けとめていた。しかし、一部の母親は「いつでも泣いているもの」や「理由なく泣くこともある」のように、特にこれといった理由がみあたらなくても泣くことがあると受けとめていた。出生後より自分の子どもの泣きを通して、“泣き”には理由があるということを実感しながら、またそう理解していながらも、なかなか泣きやまない状況に遭遇すると「原因不明」や「理由なく泣くことだってある」というように受けとめていた。赤ちゃん一般に対してもっている泣きのイメージや理解は、自分の子どもの泣きの解釈を通して修正されようとしていた。

#### (6)【児の性格・気質の感じとり】

母親は児の性格・気質について以下に示すようなことばで語った。

「とてもおりこうな子。泣けばとりあえずおっぱい。今のところ吸ったら泣きやむので、泣いて困らせることはない」、「思ったよりききわけのいい子」、「あまり泣かない方だと思う。おとなしい子」というように、“泣き”と児の性格を関連づけたり、反対に「だっこしてもすぐ泣きやんだりしないし、なんか理由なく泣いたりとか、ちょっとむずかしい子」というように児の気質を反映する受けとめ方をしていた事例もあった。

母親の語る「あまり泣かない方だと思う」や「思ったより...」という表現からは、他の赤ちゃんやイメージしていた泣きに対する思いとの比較、すなわち【児一般の泣きに対する思い】をもとに、我が子の泣きを比較していることがわかる。そしてその上で我が子の泣きの特徴とを結びつけて、児の性格・気質を感じとっていた。児がよく泣くと認識している母親は「泣き虫」や「元気な子」と、またあまり泣かない方であると認識している場合には「おとなしい子」というように受けとめていた。

以上、泣き声に対する母親の反応を構成するカテゴリの内容について説明してきた。次に、これらのカテゴリのうち【感情・情動反応】と【泣きの解釈】に関連する状況および要因について以下に示す。

### 2) カテゴリへの関連状況および要因

#### (1)感情・情動反応に関連する状況

母親の感情・情動反応に関連する状況として、『母親の気持ちの安定性』、『母親役割意識』、『前回の授乳時間からの時間経過』、『泣きの特徴からみた児の気質』の4点が抽出された。

##### i. 『母親の気持ちの安定性』

母親の気持ちの安定性とは、母親の気持ちが落ち着いた安定した状態か、不安を伴った不安定な状態かということであり、以下に示すa～dの要素を含んでいた。

##### a. 気持ちのゆとり

母親が上の子の世話をしていたり、家事などをしていて、とても忙しい状況下にあるときに児の泣き声を聞くと「あーまた泣いてしまって」というような気持ちになるのに対し、この児だけに手をかけられるゆとりの状況にある時、「かわいいな」、「いとoshii」というような児への愛着感情が促される反応がみられた。

##### b. 児が泣く時間帯

「昼はちょっとぐらい泣いても、別にオロオロしないけど、夜はやっぱり不安になる」や「夜に泣か

れるとちょっと辛い」,「昼だからまだ耐えられる。ほうっておいてもいいかな」というように、児が日中に泣くのと夜に泣くのとでは、母親の気持ちの安定性が異なっていた。

**c. 児の健康への不安**

「泣かないより、泣く方が安心」,「泣くことでしか赤ちゃんは意思表示できないから、泣き声を聞くとうれしい」というように児が泣くことをそのまま受容できたり、「どこか身体の具合が悪いのではないかと心配になる」など児の身体(健康状態)に不安を感じる気持ちの不安定さがみられた。

**d. 母乳不足の気がかり**

「母乳だからどのくらい飲んだのかわからないから、足りていないのか心配になる」と語られるように、母親に母乳が足りないのではないかという思いがあるときに、泣き声を聞くと「どうしたのかな。やっぱりおっぱい足りないのかしら」と母乳不足を気にかけて感情がみられた。

**ii. 『母親役割意識』**

泣き声に対する母親の感情・情動反応に関連する2つ目の状況として母親役割についての意識のもちようがあった。

「あーまた泣いたって思うのは思うけど、やっぱりかわいそうだからね。まあだっこしようかなって」というように、児の泣き声を聞くと一瞬、落胆するような感情をいだくが、すぐに母親として好ましくない感情だとそれを否定するような情動反応を示す

場合がみられた。

**iii. 『前回の授乳時間からの時間経過』**

泣き声に対する母親の感情・情動反応に関連する3つ目の要因に前回の授乳時間からの時間経過があげられた。前回の授乳から時間経過が長ければ「あーやっと泣いてくれた」というように、泣きを待ち焦がれるような反応になるのに対し、前回の授乳からの時間経過が短いと「あー、また泣いた」,「もう、泣いてばかり」というように、“泣き”に対し落胆と失意のような愛着感情が後退するような反応につながっていた。

**iv. 『泣きの特徴からみた児の気質』**

泣き声に対する母親の感情・情動反応に関連する4つ目の状況に泣きの特徴からみた児の気質があった。つまり、母親が1ヶ月までの間に我が子は“あまり泣かない子である”と感じ始めている場合には「やっと泣いてくれた」や「泣いてくれた方が元気で安心する」というように、児の“泣き”を待ちこがれていたり、“泣き”により安堵感を得るような感情反応があった。逆に、我が子は「よく泣く子である」と母親が感じ始めている場合には、「また泣いた」や「泣いてばかり」というように“泣き”に対し、愛着感情が後退するような情動反応をみせていた。

**(2)泣きの解釈に関連する要因**

【泣きの解釈】につながる要因として一つには『時間経過』があり、二つめは『泣きの特徴』があっ

表3. 母親が受けとめた児の泣きの意味と児の泣きの特徴

児の泣きの意味	母親が受けとめた児の泣きの特徴	
	<児の声質>	<児の様相>
おっぱいが欲しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑固※</li> <li>・怒っているよう</li> <li>・自己主張があるよう</li> <li>・泣きちぎるよう</li> <li>・フガフガフガフガと弱い</li> <li>・グズグズグズグズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口を動かす</li> <li>・手を口にもっていく</li> <li>・衣服を吸う</li> <li>・顔を無理に押し付けてくる(すりよってくるよう)</li> <li>・目がつり上がるみたい</li> </ul>
おむつを替えてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑固ではない</li> <li>・お腹が空いた時より小さい</li> <li>・グズグズグズグズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きぼっているような顔つき</li> <li>・気持ち悪そう</li> </ul>
眠い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだん頑固になる</li> <li>・すごく怒る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔をしかめる</li> </ul>
甘えたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい</li> <li>・甘えた</li> <li>・訴えているよう</li> <li>・うかがい泣き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらの様子をみて泣いている</li> <li>・目を見て甘える</li> <li>・他の人が話しかけると泣きやむが、母が行くとまた泣く</li> </ul>

※頑固とは、声が大きくなかなか泣きやまない状態をいう。

た。

i. 『時間経過』

『時間経過』というのは、前回の授乳時間から考えて、“泣き”がちょうど適当な授乳時間であるかどうかということである。つまり、母親は「さっきおっぱいをあげた時間は〇〇時だったから、まだ2時間しか経ってないのでおっぱいじゃないわ」や「そろそろおっぱいの時間だから、おなかが空いたのね」などのように、前回の授乳時間から次の授乳時間がいつ頃になるかを予想し、その時刻近くに児が泣けば、おっぱいを欲しがっていると解釈し、予想した時刻でないときに児が泣けばおっぱいを欲しがっているのではないという解釈の仕方をしていた。

ii. 『泣きの特徴』

児の泣きの解釈につながるもう一つの要因として、

児の泣きの声質やしぐさなどを含めた泣きの特徴(表3)があげられた。

たとえば、母親は「おっぱいの時は頑固になくけどおむつの時は頑固ではない」や「おっぱいの時は怒っているように泣く」というように[児の声質]から泣きの解釈をしていた。また、おっぱいの時は「口をパクパク動かす」、「手を口にもっていく」、「衣服を吸う」や、おむつの時は「気持ち悪そう」というように[児の様相]から“泣き”の意味を見極めようとしていた。

この生後1カ月という時期における母親は、授乳の時間経過あるいは泣きの特徴のどちらか、あるいは2つを含めて、児の泣きの意味を見極めようとしていた。初産婦は経産婦に比べて、泣きの特徴から児の要求の違いを判別することが難しいようであっ

表4. 対照的な2事例の比較

事例1 —初産婦— 〈泣きの解釈や泣きの対応に困難を感じている〉	事例2 —1経産婦— 〈泣きの意味を理解し、泣きの対応に困難があまりない〉
<p>児の泣き声をきくと「泣くしか意思表示できないからうれしいです。やっぱり元気がないとね、心配だからね...でも、夜は(泣かれると)ちょっと辛いけど... (フフフ)泣くと「おむつをかえて、だっこして...そのあと私の服とか吸うような口したり、手を口にもっていったりしたら、あーおっぱいだなって思って、おっぱいあげます。だいたいはおっぱい飲むと泣きやむけど、夜はおっぱいあげてもグズグズグズグズして1時間くらいすると、またおっぱいほしいしぐさするんで、またあせってって感じで...さっき(おっぱい)あげたはずだし、だっこもしとるし、おむつもさっきかえたしっていう時(何しても泣きやまない時)があるから、そういう時は不安になります。でもそんなことってあるんですね。あるみたいな感じ...ちょっと不安になるけど...泣かれると何かあるんだって思うから」</p> <p>昼は誰もいないし、ちょっとぐらい泣いても別にこっちもおろおろしない。少し泣かせるけど、夜はやっぱりね。なぜか不安になる。まわりに迷惑じゃないかなって...」</p> <p>児が泣くのは「おなかが空いた時とだっこしてほしい時。(泣き声で要求の)区別はつかない。どっちかやってみてって感じ。この時期、おむつが汚れて気持ち悪いからって泣きますか?そういうのはまだわかりません」</p> <p>児については「今は昼と夜が逆だから...ちょっとこずらせてるっていうか... (フフフと笑顔)」</p> <p>また「昨日、あまり毎回のようにつぶくもので心配になり、病院に行ってきました。体重が4300g(出生時2640g)でした。(略)この子、変ではないですか?」と確かめるような表情でたずねる。</p>	<p>児の泣き声をきくと「忙しい中でないたら、あーもうまた泣いてしまったという感じだけど、余裕があればそうは思わないで、かわいいなと思う。今はものすごく忙しいから、ほったらかしにして泣かせてしまうこともあるけれど、待たせてごめんねって感じ...で、最初にすることはだっこですね。だっこ1回して、次におむつかえて、そして(おっぱい)飲ませてって感じです。それでも泣きやまなければ、そのままずっとだっこしてるけど... (児を)立て抱きにして遊んだりします(略)。(何をしても泣きやまない時というのは)ほとんどないです。だっこすれば泣きやむか、飲ませれば泣きやむかです。飲んででもだっこしても泣きやまない時は、眠くて怒っているのかなと思います。(略)</p> <p>泣き声で区別しているわけではないけど、だいたい時間をみておむつだとか、起きたら飲ませるといって感じ...だいたいわかります。泣き声はずいぶん大きくなったし、怒って泣いているというのがわかる。しばらくほうっておいたら、早くだっこしてくれ!みたいな感じで...だんだん怒ってくるというか頑固になる」</p> <p>児については「あまり泣かない方です」泣きに対し「泣かせないでおこうとは思わない。少し泣くのも運動だわって思う。しょっちゅう泣かせておくのもよくないと思うし...ある程度飲んだり、だっこしたりした後でも泣いていれば、しばらく泣いていてって感じで10分くらいおいておくこともあるけど...」</p>

たが、それでも“おっぱいを欲しがるときの泣き”については他の要求を表わす“泣き”と区別されつつあった。

### 3) 対照的な事例の比較

これまで1ヶ月時における児の泣きに対する母親の反応を分析して示してきたが、具体例として対照的な2事例を紹介する(表4)。事例1は、児の泣きの解釈や児を泣きやませることに困難を感じている初産婦であり、事例2は、児の泣きの対応に困難さがあまりないと思われる1経産婦の母親である。

両者の母の反応の仕方や背景を比較すると、事例1は児の泣きの理由がわからず、児を泣きやませることに困難を感じていた。特に夜に児が泣くことに対し不安をもっていった。これに対し事例2は、看護婦経験と小さい頃から兄弟の子どもの世話の経験があった。この母親は、児が泣くには何らかの理由があると受けとめており、だっこすればだいたい泣きやませることができていた。また、何をしても児が泣きやまない状況の時は「児が眠いとき」と受けとめていた。

以上のことから事例1と事例2の違いは、[泣きの解釈と対処の仕方に困難さを感じるかどうか]であった。泣きへの対処の困難さは、夜に児が泣くとあせりや不安などにつながっていた(事例1)。

## 考 察

生後1ヶ月児の泣き声に対する母親の反応を分析してきた。今回、新生児をもつ母親をサポートする立場から母親の心理的状況を理解し、援助に役立たせるために、1) 母親は児の泣き声に対してどのような状況の時にどのような感情をもちやすいのか 2) 母親は児の“泣き”をどのように解釈しているのか、の2点について考察する。

### 1. 泣き声を耳にしたときの母親の感情・情動反応とそれに関与する状況

児の泣き声を耳にした時に示す母親の感情・情動反応には、「うれしい」、「かわいい」など児への愛着を示し、児に積極的に手をかけようとする気持ちと、「また泣いた」、「泣いてばかり」などのどちらかといえばやや愛着感情が後退するような感情がみられた。

これらの感情・情動反応とそれに関与する状況を分析した結果、『母親の気持ちの安定性』、『母親役割意識』、『泣きの特徴からみた児の気質』、『前回の授乳時間からの時間経過』などが関与していた。

児に向かう気持ちが一歩退いているように感じる

時の状況は、母親が忙しい状況であったり、児が泣く時間帯が夜の場合であった。このような状況の時は、どうしても児への愛着感情をもちにくいことは容易に推察できる。その他の状況としては、児がよく泣く子であるとか、前回の授乳時間からの時間経過が短時間の場合などであった。

いつも児を否定的にとらえるような感情反応を示す場合は問題となるが、今回の面接においては「泣いてばかりでいやになる。うとうしい。もう聞きたくない。」などの明らかな強い否定的な感情反応を示す事例は見られなかった。これは、研究者に対して母親としてふさわしくみられたいというような気持ちが働いていたのかもしれない。

一方、ある母親は児の泣き声を聞くほうが「うれしい」とか、「安心する」という、泣きに対する肯定的な感情を抱いていたが、自分自身の気持ちにゆとりがある状況であったり、前回の授乳からの時間が長すぎると感じる場合で、児の泣きを待ち焦がれていたことが推察できる。

また、ある事例は「また泣いた」と思うが、「やっぱり、かわいそうだからね。だっこしようかなと思う」という言動が後に続いている。これは、また泣いたと思うこと自体、母親としてふさわしくない、あるいは母親として適切な行動をとらなければならないという思いが頭をよぎるのであろう。日本の子育ての特徴として、昔から母親は乳児が泣くといつでも抱き上げ、母乳を与えてきたという背景があり、このような姿が母親らしいと認識されているのかもしれない。

### 2. 泣きの解釈とそれに関与する状況

母親がとらえた泣きの解釈は、「おっぱいがほしい」、「だっこしてほしい」、「おむつを取り替えてほしい」、「眠い」などであり、これらの要求の区別は、初産婦より経産婦の方により見極められていた。これらの児の要求の見極めには、前回の授乳時間からどれだけ経過しているかという『時間経過』と、[児の泣きの声質]や[児の様相]といった『泣きの特徴』が関与していた。この結果は、難波ら<sup>19)</sup>の研究報告とも一致する。これは出生後より、児の世話を通して数多くの泣きに遭遇してきたことによる経験学習の結果とみることができる。今回の対象事例のほとんどは、初産婦・経産婦を問わず、おっぱいを欲しがるときの泣きを他の理由での泣きと区別して見極められていた。これは、新生児期は、授乳以外はほとんど眠っており<sup>20)</sup>、出生時より約3時間毎の授乳を中心とした生活を過ごしているためと考

えられる。すなわち、何回となく聞くおっぱいを欲しがるときの泣き声や、何回となく見る児の表情(おっぱいをさがしているようなしぐさや吸うようなしぐさは、出生直後から3~4カ月ころまで見られる原始反射に由来するもの)から、その特徴を一番把握しやすいのであろう。そして、満腹になることにより児は泣きやみ、眠っていくという明らかな行動の変化が母親の目に映るからである。

以上述べてきたように、生後1カ月という時期は、母親が出生時からの児との関わりを通して、児の要求を見極めようとし、またそれを確かなものにしていく過程にある。さらに、児の“泣き”の解釈の過程で、とくに経産婦においては児がすでに周囲の様子をうかがいながら泣いたり、甘えや怒りの感情を込めて泣いていると受けとめていることがわかった。このような児の行動は、児が泣くことで周囲に向かって反応するのが5~6カ月、甘えや怒りの感情や情緒の表現ができるようになるのが3~4カ月とする従来の見解<sup>21)</sup>よりかなり早い時期にみられたといえる。したがって、1ヶ月時ですでに母児間の感情的交流は可能であり、生後1カ月児をもつ母親の“泣き”に対する理解を深め、退院時指導につなげていくことが重要となる。

初産婦においては、この生後1カ月という時期は、児の泣きの解釈が十分ではなく、対応にやや困難さがみられるが、時期を追うごとに児との交流経験が積み重なり、やがて自信のもてる安定した関係へと発展していくものと思われる。

今後これらの対象のその後について追跡調査し、児の泣きに対する母の受けとめ方に関与する状況や要因を母親側、児側の双方から、更に検討する必要があると考えられる。

## 結 論

生後1カ月児の泣き声に対する母親の受けとめ方について質的な分析をし、以下の点が明らかになった。

1. 児の泣き声に対する母親の反応には、【感情・情動反応】、【認知的反応】、【泣きの解釈】、【児の要求を満たすための行動】、【児一般の泣きに対する思い(理解)】、【児の性格・気質の感じとり】の6つのカテゴリーがあげられた。

2. 児の泣きに対する母親の反応に関連する状況や要因として、

1) 【感情・情動反応】には、『母親の気持ちの安定性』、『母親役割意識』、『時間経過』、『児の性格・気

質の感じとり』があげられた。

2) 【泣きの解釈】には、『時間経過』と『泣きの特徴』があげられた。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、快く御協力下さいましたお母様方をはじめ、データ収集の場を与えて下さった対象施設の院長、スタッフの皆様、心より感謝致します。なお、本研究は第12回北陸母性衛生学会において発表したものに一部加筆・修正したものである。

## 文 献

- 1) 馬場一雄：改訂小児生理学，1-5，へるす出版，1994.
- 2) Wasz-Hockert, et al. : The infant cry : a spectrographic and auditory analysis. Clinics in Developmental Medicine, 29 ; 1968.
- 3) 巷野悟郎：乳児の泣き声，小児外科，4(7)，721-727，1972.
- 4) 中村孝他：乳児の泣き声の分類，小児科，14(7)，573-577，1973.
- 5) 大井照：音声スペクトログラフによる泣き声の研究，日本新生児学会誌，13(2)，250-258，1977.
- 6) 二木恒夫：新生児期，乳児期における<泣き声>とその発達の意義，児童精神医学とその近接領域，20(3)，161-176，1979.
- 7) 長澤邦雄，他：新生児“泣き声”の分析とその意義，母性衛生，28(4)，585-586，1987.
- 8) 小林健二，他：新生児の泣き声の時系列パターンの検討，医用電子と生体工学，24，107，1986.
- 9) 織田利光：正常新生児の泣き声に関する研究，日医大誌，55(1)，29-37，1988.
- 10) 大井照，馬場一雄：泣き声と神経疾患，小児医学，6(6)，1081-1097，1973.
- 11) 大井照：音声スペクトログラフによる泣き声の研究 第2編 先天異常児の泣き声，日本新生児学会誌，13(2)，259-269，1977.
- 12) 前掲書 1) 5-11.
- 13) 足立智昭，他：乳児の泣き声に対する母親の対処行動に関する研究，母性衛生，25(2)，235-239，1984.
- 14) 足立智昭，他：新生児の泣き声に対する母親の対処行動とパーソナリティ特性との関連，母性衛生，25(4)，466-467，1984.
- 15) 茅島江子，他：新生児の泣き声に対する褥婦の反応，母性衛生，29(4)，467-468，1988.
- 16) 脇田満里子，他：新生児の泣き声の意味の理解-母子相互作用の観点から-，母性衛生，32(4)，531-532，1991.
- 17) Jane E. Drummond, et al : The Development of Mothers Understanding of Infant Crying, CLINICAL NURSING RESERCH, 2(4), 396-413, 1993.
- 18) J. Downey, et al : Perinatal information on infantcrying, Child : care, health and development,



16, 113-122, 1990.  
19) 難波寿子, 他: 母親が新生児が泣く理由を判断する要因  
の経日的変化, 母性衛生, 38(4), 382-388, 1997.

20) 前掲書 1) 2-3.  
21) 前掲書 1) 97.

## A Study of Mothers' Reactions to Infant Cries

Noriko Tabuchi, Keiko Shimada, Akemi Sakai  
Midori Sumitani, Sachie Kameda

### ABSTRACT

The present study is undertaken to investigate how mothers feel and what actions they take, when they hear the cries of their babies at one month after birth.

The subjects of this study were 11 women who delivered normal neonates at a private clinic in Ishikawa Prefecture. How these mothers dealt with the cries of their babies was investigated by means of an interview with a semi-controlled method. The interviews were recorded on tape with each mother's consent. Qualitative analysis of the mothers' responses to their babies' cries yielded the following results.

The responses of mothers to their babies' cries at one months after birth were found to contain the following six elements: emotional responses, cognitive responses, intellectual interpretation of the cries, concrete countermeasures, intuitive understanding of the cries, and evaluation of the baby's character and temperament.

These emotional responses were affected by the mother's psychological state, the mother's awareness of her role as a mother, the time since the previous lactation, and the babies' temperament reflected in their cries. Mothers attempted to interpret the meaning of their babies' cries. This attempt involves two elements (time and features of the cry).

This study revealed how mothers felt when hearing their baby's cries and what action they took to deal with their baby's cries at after delivery. The findings of this study may be useful for nurse to support mothers in the care of babies at one month after birth.